

思い出の一冊



本の題名 『ブラックジャック』 著：手塚治虫 読んだ年齢：中学2年生くらいから

学生時代に感じる事、大人になって感じる事、生きている間、ずっと考えさせられる本だから。

大学病院の教授選挙にベテラン医師二人が立候補する。もう一人、同じキャリアの医師がいるが、この人は威張るでもなく真面目に仕事をし、いつも手術の執刀補佐にまわっていた。目立つ存在ではないため、周りからの評価は低かった。そんなある日、立候補者2人が汚職で逮捕され、困難な手術ができるベテラン医師がいなくなった。そんな時、この目立たない医師が手術の執刀をし、見事困難な手術を成功させる、という、わかりやすいエピソードから、医学（人間）が自然界における限界について、人間のおろかさについてなど、考えさせられるエピソードまで、しかもマンガなのでとつきやすく一話が短いので時間のある時にサクッと読めてしまう。

何度も読んで欲しい本である。

三浦 亮子（三浦壮太郎 母）

本の題名 『まどぎわのトットちゃん』 著：黒柳徹子 読んだ年齢：小学校の時

お母さんに読んでもらってとてもうれしかったことを覚えています。

世界中で活躍されている黒柳徹子さんの、子供の頃のお話です。

やさしい気持ちやおなじきもちになれたりしました。

藤谷 由圭里（藤谷真菜 母）

本の題名 『シャーロックホームズの冒険』 著：アーサー・コナン・ドイル 読んだ年齢：小学校高学年

少年時代に多くの本を読むということは大切です。本にふれる文字に慣れるということにおいて、この本は、最後まで読まないで結末が分からない。一度読み出したら、途中でやめられない推理物です。

名探偵と言えば「ホームズ」助手と言えば「ワトソン」、怪盗と言えば「ルパン」など代名詞として使われるほど有名ですが、元となった作品に触れる機会は、必要だと思います

國弘 正義（國弘諒一 父）

本の題名 『わたしがあなたを選びました』 著：鮫島浩二 読んだ年齢 23歳

私が長男を出産するときに、友達からもらった本です。初めての出産で不安だった私を勇気づけてくれました。我が家は男の子で、まだ時期も早いけれど、いつか結婚して奥さんが赤ちゃんを産むときに、一緒に読んでみてほしい一冊です。

中村 雅美（中村功太 母）



わが子に読んで欲しい

本の題名『世界のウルトラ怪事件』 著：中岡俊哉 読んだ年齢：小学校低学年

当時、友達とあれこれ考察しながら、世界の不思議な事件について語り合った事が今でも思い出に残っています。「もし美川町でこんな事件があったら自分たちはどうするか？」などと想像すると、とても楽しかったです。

田中 大智（田中晶・亘 父）

本の題名『ガラスの仮面』 著：美内すずえ 読んだ年齢：小学校6年

あの頃何冊あったのか、はっきり覚えていませんが徹夜で読みました。ストーリーに引き込まれてとてもおもしろかったです。白黒なのに、絵に色が見えるかのような魅力を感じ、好きなシーンを何度もページを戻し読みました。もし読む機会があれば、読み終わった後、自分のしたい事が思い浮かんでくるといいなと思います。

服部 めぐみ（服部一颯・みはと 母）

本の題名『いのちをいただく』 著：内田美智子 読んだ年齢：最近

親子で両親の仕事のことを話したことがあるでしょうか。私は、子供達に給食について「どうだった？」と尋ねることがあります。この本は、普段食べているもの全てに命があることを、牛が肉になっていくように、解体業の仕事をしている方が子供に話をしています。私の中では感動する一冊でした。

中野 芙美江（中野美優 母）

本の題名『おやつがほーい どっさりほい』 著：梅田俊作 梅田佳子 読んだ年齢：低学年

題名がリズムカルで、楽しそうな感じが好きでした。

女の子がバスケットに入れているおやつを食べたいキツネが、女の子にすーっとついて行って、いっぱい歩かされた拳句に、泥で作ったおやつだったというオチがおもしろかったです。大人になってから、「確かに子供が作ったおやつだから泥でできていてもアリだね。」って、変に納得できたりして・・・ 升本 佳世子（升本結利世・智視 母）

本の題名『封神演義』 著：藤崎 竜 読んだ年齢：小学5年

大昔の中国の歴史の話で、人間の他に妖怪、仙人が登場し、平和な国を作ろうとそれぞれの思いで、それぞれの側で戦う話です。まんがなので、難しく考えることなく、歴史が苦手でも楽しく読めました。絵がとてもかっこよいところが一番のおすすめポイントです。

藤本 あゆみ（藤本伊織 母）